令 和 ８ 年　　第 １ ５ 回

北本市議会改革特別委員会会議録

令和８年　２月　２５日　開　　会

北　本　市　議　会

議会改革特別委員会

１．開会年月日　　令和８年２月25日（水）　午後１時３０分

２．出席委員　　工　藤　日出夫　委員長　　中　村　洋　子　副委員長

桜　井　　卓　委　員　　小久保　博　雅　委　員

湯　沢　美　恵　委　員　　島　野　和　夫　委　員

永　井　　司　委　員　　滝　瀬　光　一　委　員

大　嶋　達　巳　委　員　　保　角　美　代　議　長

３．欠席委員　　（１名）

高　橋　　誠　委　員

４．説明のため出席したもの（０名）

事務局職員出席者

関　口　智　明　　局　　長　　佐　藤　慎　也　　参　　事

金　子　瑠　美　　主査兼ＧＬ　　小　林　範　之　　主　　査

開会　午後　１時３０分

○工藤日出夫委員長　ただいまから第15回議会改革特別委員会を開会いたします。

本日、高橋委員より欠席する旨の連絡がありましたので報告いたします。

議事に入る前に、委員会傍聴についてですが、本日の委員会の傍聴については、これを許可しますので御了承ください。

ここで暫時休憩いたします。

休憩　午後　１時３０分

再開　午後　１時３０分

○工藤日出夫委員長　休憩を解いて再開いたします。

本日の日程につきましては、お手元に配付いたしました日程表のとおりです。

日程第１、議員定数についてを議題といたします。

前回の委員会で議員定数について様々な協議をさせていただき、最終的にはアンケートを取ることが必要ではないかという御意見がございました。そのことを受けて、事務局と私とでアンケートの案を作って皆様にお示しをし、そしてアンケートの実施の方法と内容等について、次回協議するということを申し上げて会議を閉じておりますので、皆さんにＬｏＧｏチャットで、アンケートの案をお送りいたしました。その案を基にして、アンケートの実施について協議をしたいと思います。

特に私から作りました案についての説明はいたしませんけれども、皆さん読んでいただいていると思いますので、何かこれについて御意見、またはアンケートそのものについて何かお考えがあればいただきたいと思いますので、御発言の方いらっしゃいますでしょうか。

永井委員。

○永井　司委員　アンケートの取得方法はどのようにされるんでしょうか。

○工藤日出夫委員長　この間いただいた意見では、ＱＲコードをつけてオンラインで行うのはどうでしょうかというような御意見はいただいておったと思いますけれども、紙媒体にして郵送方式にするのか、ホームページ等に掲載をして、ＱＲコードをつけてアンケートを実施するかといったようなことについては特に決めていません。

○関口智明局長　案でお示しさせていただいていますが、裏面を御覧いただきますと、案としてはオンラインで、ＬｏＧｏフォームを使ったＱＲコードで入れるオンラインのものと、ファクス、あと郵送・持参、ちょっとアナログ的になりますけれども、例えば公民館で配るとか、皆さんが例えばアンケートを集めるとか、イベントで配るとかいろいろあると思います。案としては、その裏面に掲載させていただいております。

○工藤日出夫委員長　永井委員。

○永井　司委員　取るというのは、その媒体の件もそうですけれども、このアンケートだけをお渡しさせてもなかなか取りたいデータ、この議

員定数の増減、削減に資するようなアンケートが取れるのかなと正直思ったところです。例えば、直感的にこの議員定数20人どうするかと、これも項目としてどうなんだろう、妥当なんだろうかとふと疑問に思いました。こちら側から例えば近隣市との比較ですとか、報酬の部分、あるいは財政規模に対する議会の費用、そういったものも全てお示しをした上でアンケートを取るのが望ましいのではないかと思ったんですけれども、いかがでしょう。

○工藤日出夫委員長　御意見が出ました。いかがでしょうか。

桜井委員。

○桜井　卓委員　私も同じところを思っています。まず一つ目は、問２、直感的にどう感じますか、この設問の意図が分からないなと思っていました。

それから、もう一つは、裏面の上の四角囲い、定数は現状維持が妥当との意見が多く出されましたと。確かに意見交換会で住民の方からは、そのような意見が多かったと思うのですが、この委員会の中で、まだここについて議論ができていないんじゃないかと思っています。１委員会６人から７人が熟議に必要という見解、これは話をしましたけれども、これに加えていろいろ人口面の比較だったり、議会費の比較だったりというものを前回意見交換会では示しておりますので、そういったものを示したほうがいいのではないかと思っています。

また、最後の３行ですね、ここについても、このような結論というのは、結論というのかな、取りあえずの案として、この委員会で、これで行こうという話はしていないと思うので、これは書き過ぎなのなかということを感じました。

○工藤日出夫委員長　前回の会議の中では、委員会としてある程度の方向性を出した上で、そのことについて、いいか悪いかという聞き方がいいのではないのかなといったような意見が多数たったので、これはこれでいいというんではなくて、少なくとも、ここまでの中での意見が集約されているとするとこういうような内容で、違うというんであれば違う意見でいいんです。これはあくまでも仮説ですから。ただ、委員会としてのある程度の方向性を出した上で、その方向性が適切か適切でないかという聞き方のほうがいいんではないかというような、そういう意見が多かったように記憶しておりましたので、仮説としてこういう形を作って、これが完全なもので、このとおりやりますよという話ではありません。

ですから、先ほどの問についても、どうぞ御自由にやるんであれば直していただいて、これをいつやって、いつまでに結論を出して、いつになったら定数の問題をどうするんですかというところも同時に考えていただかないと、締切りのないアンケートでやっていくと、最終的に結論はいつまでも出さなくなりますので、その辺も含めてぜひお考えになっていただきたいと思います。

もう一つの方法としては、各委員が自分でも

って、どういうアンケートならいいのかというアンケートの案を作っていただいて、みんなで寄って、それで取捨選択して決めるという方法もあると思いますけれども、あえて前回の会議の最後に、事務局と私で案を作ってお渡ししますという話をしましたので、これでやりますよというものではありません。

大嶋委員、何かございますか。

○大嶋達巳委員　アンケートは、やらないよりはやったほうがいいかとは思いますけれども、仮に、こちらで出した案に対して違う意見が出てきたときにはどうするのかというのもありますし、私たちはそもそも市民から付託を受けていますし、我々がふだんの活動の中で意見を聞いていますから、それを集約した形で決めるほうがいいかと思います。先ほど言われたいろいろスケジュールのことでも考えていったらなかなか難しい部分もありますので、ここで結論を出すので終わりにするということも考えてもいいんじゃないかと思います。

○工藤日出夫委員長　そのような意見もございます。

島野委員は何かこのことについて、定数も含めて何か御意見ございますか。

○島野和夫委員　アンケートで市民の考えをお聞きするというのは非常に重要なことだと思います。ただ、そのアンケートの取り方は非常に難しいのかなと思います。先ほどあったとおり、その定数に対して近隣の状況とか、北本市の人口、あるいは予算、そういったものを情報提供した上でアンケートを取っていくということも大変重要なことだと思います。

直接、直感的にどう感じますかと、非常にそう聞くと、大体有権者は議員定数少ないほうがいいと、ほとんどそういう意見が多いのかなという、そういう懸念もありますので、非常に難しいのかなというふうに、そのアンケート結果をどういうふうにまた参考にしていくのか、これも議論が必要かなと思います。

○工藤日出夫委員長　島野議員からは、アンケートを取ることによって住民の人たちの、ある意味、感情的な思いみたいなものだけで、アンケートに答えていただくということだけで、それをどういうふうに取り扱っていくのかなということの御意見だったように受け止めましたけれども。

小久保委員、何かありますか。

○小久保博雅委員　永井委員が言われたように、どうやって配布するのかというのが、例えば議会だよりに挟んで入れるとなると、１世帯に１枚しかないんですね。ではコピーして使ってくださいということになるのか。大量コピーして、同じ人が恣意的に動かそうとしてやれる可能性も、やろうと思えばあり得るわけですね、そういうことも。だから、非常にこの配布の方法をどうするのかというと難しいかなと思います。アンケート自体は我々が自分たちだけの考えでやっているのではなく、市民の皆様の声も寄せていただいているというところを示す姿勢としても良いと思います。

ただ、最後の問６の、御自由にお書きくださいという項目については、これ余りにも、御自由にお書きくださいというと、本当に自由に、全然関係ないことも書いたりしてしまうので、議会改革等、議会に関する御自由に御意見をお書きくださいみたいに、一言入れておいたほうがいいかなという気はしています。

○工藤日出夫委員長　この案にこだわる必要ないです。あくまでもたたき台のたたき台で、前回の最後に、私からこういうものを取りあえず出しますということで出しましたので、これで推し進めたいというようなことでもないですし、私が作ってみますという方がいれば、お作りになっていただいてもいいです。ただ、どの時点で結論を出すのかというのをそろそろ間もなく１年になりますので、結論をどこにするかによっては、そのアンケートの精度がどの程度の精度を持っていくのかということも含めて、我々はそれを受けてしまえば何らかの拘束を受けてしまうので、そう簡単に街角アンケートみたいなものとは本来は違うはずではないのかなと思ったりはしますけれども。

湯沢委員は、このアンケートについてはどのようにお考えであられますか。

○湯沢美恵委員　出されたアンケート案について、こうしたほうがいいとか、ここはこういうふうに直した方がいいと思う部分はあるので、そこについては改めて意見を述べる、あるいは皆さんでもんでお直しすればいいかなという感じがしていますので、そのことについて今言及はしませんが、市民の声を聞こうという意向を酌み取るためにアンケートを取るということは必要なことではあるかなと思います。最終的に市民の方たちにいただいた意見を踏まえて結論を出すのは結局ここ、議会の議員なわけなので、あくまでも参考にするということなんじゃないかなと思います。

それを考えると、問２の設問の仕方であるとか、あるいはその後ろの枠の中に書かれている書きぶりとかというところは少しもむ必要はあるのと、アンケートの取り方としては、不特定多数に取れるのが一番いい方法だと思うので、ＳＮＳを使ったやり方だけに限らず、紙媒体でも取れるようなことについてみんなで知恵を出して考えていくというのは必要かなと思います。ただ、それは具体的に、それはどうやればいいのかというところは、今のところすぐに思いつくわけじゃないですけれども、それも含めていろいろな手段で集めればいいんじゃないかなというところは思っているところです。

○工藤日出夫委員長　滝瀬委員はいかがですか。

○滝瀬光一委員　私の認識では、前回の特別委員会においてアンケートは取るということをこの委員会としての結論となったというふうに理解しています。そのため委員長と議会事務局でアンケートの内容について、たたき台を本日までに作って、この委員会に提出されたものとして考えております。

したがって、今日はアンケートの案文について議論する。そしてまた、アンケートの取り方

について最終的にどうするかという結論を出すと認識しております。このアンケートの案については、私としては問２は要らないと考えています。

そしてまた、裏面の特別委員会での検討内容については、これ内容が必ずしも正確であるとは認識していないので、ここは加筆訂正が必要であると考えています。

○工藤日出夫委員長　裏面の委員会としての20人での現状どおりでいきますよということは、仮説として委員会の基本方針の定めた上でアンケートを取ったほうがいいのではないでしょうかという意見がありました。

ですから、まだ決まっていませんけれども、例えば決まったと、こういう形で決まったとすれば、こういう投げ方なのかなということで、もし、こういう投げかけ方の方針を決めた上で、それについて、それを仮説としてそれが住民の考えと合っているのか、合っていないのかという取り方をするということであれば、それはこの基本の方針をどこかで決めるということは必要になってくると。まだ決まっていませんから、今、滝瀬委員おっしゃったように、私の認識と違います、当然違っていいんです、何も決まっていませんから。

ただ、こういう形で決まったとしたら、こういう形でいいんじゃないでしょうかというのはあくまでも。これ出そうかどうするかというのは、正直私が悩みました。なぜかというと、今みたいな意見になるんじゃないかなと。これ違うんじゃないですかと、違うも違わないも何も決まっていないんです、そういう意味で言うと。先ほどもありましたけれども、何も決まっていないから、ここを真っ白にして仮説はどうしますかというと、またイメージが湧かないんじゃないかなと思ったので、今までの議論の中て出てきたような形のものを取りあえず載せただけですので、変えるのはいつでも変えられますので、御自由に皆さんの最終的な合意形成がはかられたところで、その仮説について聞くと。単純に減らすんですか、増やすんですか、現状のままでいくんですかという、こちらの、これまでやってきたことは全く別にして聞くということであるならば、最初に聞けばいいじゃないかと私は思いますけれども。今頃聞くんじゃないよと。

最初に議会改革でやるために、議長が定数についてはアンケートを取った上で、このアンケートに基づいてどうするのかというのを決めるというんだったらあれですけれども、今ここまでやってきて、ここでアンケートを取らなければ決められないということが、御意見が多いので、どういうアンケートにするんですかという話ですよ。問題によっては、今までやってきた議論が全く無駄になる可能性もあるんですよ。議員定数について、住民との意見交換会含めてやってきたことが、全く別な形にアンケートの結果が出てくる可能性もあるわけじゃないですか。だから、この段階で聞くには委員会としての一定の方針を出した上で、それについていい

か悪いか、どうなのかという聞き方をしないと、定数について、ここまで４回、５回住民との意見交換会も含めてやってきたことそのものが意味も持たなくなるんじゃないかなというのは、私は一番それを危惧していますけれども。

永井委員。

○永井　司委員　タイミング的にアンケートを取るのはどうかという話があったと思うんですけれども、確かに感じているので、ある程度委員会で決めてから、例えばパブリックコメントにかけるとかのほうが手続的に適しているのかなと思っているんですけれども、いかがでしょう。

○工藤日出夫委員長　アンケートじゃなくて、パブリックコメントというような御意見も出てまいりました。

桜井委員。

○桜井　卓委員　子どもの権利条例のときにもお話ししたんですけれども、あのときも、最初に素案に対する意見をいただいて、それを踏まえて案を固めて、それに対してパブリックコメントという形を取ったんですよね。何でパブリックコメントをいきなり作らなかったかというと、意見をもらったときに様々いろいろな意見が出てくるだろうと、そのときに当然賛否があったわけですよね。大きく方針転換はそうなると、パブリックコメントの後、もう１回方針転換すると、またそれに対してパブリックコメント出さないと筋が通らなくなってしまったので、できるだけ最初の段階でいろいろ幅広く意見を聞いておいて、だから、このときには市民に限らず、本当に幅広くいろいろなところから意見をもらって、素案をしっかりともんで最終案にしようということをやったというのがあるので、今回の件に関しても、結構二分されるおそれがあるので、片方の意見が多かったから、素案で出したものが180度変えて、それを可決していいのかというと、なかなかそうもいかないとおもうので、そういう意味ではパブリックコメントではなくて、こういう形で意見を聞くというのは意味があるのかなと思っています。

それから、意見の聞くタイミングとしては、そうは言っても、やはりこの委員会の中である程度というか、最終的に一本にまとまらないにしても、大方の意見としてはこうだというのは示した方がいいと思うんですね。なんで、そういう形でここに書かれたと思うんですけれども、それをしっかり議論した上でここに書き込んで意見を聞くという形がいいのかなと思っています。

○工藤日出夫委員長　そういう御意見が今出てまいりました。前回も委員会としての基本的な考え方をまとめて、そのまとめたものについて市民のこういうお考えを聞くのがいいんじゃないか、たしかそういう形だったんだと思っています。

ですから、裏面にあるものをまず作ったと、取りあえずは、仮説として。でも、実際には何も私たちは住民、そういう意味で言うとあれなので、表のほうには全く条件をつけないで聞いて、そして、要件をつけて聞いたのと、どうい

う差が出てくるのかというところに、その差の中に住民が本当に考えている議員定数についての考え方が見えてくるんじゃないなかということで、表と裏のアンケートの案文を考えてみました。

議長は何かお考えありますか。

○保角美代議長　先ほど滝瀬委員がおっしゃったように、前回アンケート取ろうと思うのはみんなで、そうしましょうということで決めたのかなと思っています。今議論すべきは、私たちの意思、現行の20人が妥当と判断していますという文書になるのか、そうじゃない文書になるのか分からないんですけれども、本当の核心のところはまだそんなに議論をしていないのかなと思うので、この時間はそっちにむしろ時間を使うべきで、そうすると、おのずとここの意思が固まるとアンケートの内容もすっと入ってくるものと、これ要らないかなというものと整理ができてくるのかなと思います。

それとともに、スケジュール的なものですけれども、今回の３月の内容の議会だよりが出るのが５月１日号、次の６月議会が出るのが８月１日号と、議会だよりのタイミングで紙を挟むのかどうかは別として、アンケートのＱＲコードなりをつけられるのが一番いいのかなと思います。８月の議会だよりにするのか、３月は余りにもタイトかなと思うんですけれども、そこらあたりなのかなと。８月１日に私たちも議会だよりが来て、アンケート取る、大体１か月ぐらい置いて８月の末、９月議会あたりにはもうアンケートの結果が出てきて、私たちのこの四角の中の内容とどれが違うか精査をそのあたりでするのか、そうすると条例改正ですよね、これ。変えるとなると条例改正なので、12月議会で条例改正するんじゃ遅いのではないのかなと思います。

その辺を少し加味しながらスケジュール的なものは決めていかなければいけないのかなと。一番はやはりこの中身をまず私たち議論を固めていくことかなと思っております。

○工藤日出夫委員長　時期の問題もあります。もちろん委員会としての方向性をきちんと出すということが大前提ではありますけれども、仮に、ＱＲコードをつけてホームページで出したり、いろいろな形でやったとしても、ある一定の時間軸がないと、多分徹底していかないだろうと。前回の１月の広報に、市民との意見交換会について結構大きく広報で取り上げていただいて、実際にやって、20人か30人ぐらいの人が参加しているという状況を考えていけば、どういう媒体を使ったらアンケートにたくさんの人たちが答えてくれるかということについては、なかなか見えてこない。一番なのは、住民基本台帳から無作為に抽出して、手紙に入れて出してくるという郵送方式のアンケートが一番正確なんだと思うので、やり方としては。そのやり方以外のやり方でやっておるというのは、一つの傾向値としては取られると思いますけれども、社会調査からの精度としての住民基本台帳から出して、ある一定の1,000なら1,000、1,050なら

1,050の戸数から応招してくるということよりは、精度はどうしても落ちてくるんじゃない。それと、永井委員も、他市との比較の問題とか、いろいろな問題をちゃんと載せた上でとなると、かなりの大きなボリュームになるんですよね。その大きなボリュームになったものをネットに載せたり何なりしていて、そういうことをきっちりと踏まえた上でとなると、これも結局作業的にも結構なものになるんじゃないかなという、そういう懸念も持ってはいるんですけれども。

それでは、やるという前提になっているということでありますから、それでは、この委員会としての基本方針について、ではどういうふうにするのかというような議論をもう少し深めて、できれば結論に近い形のものを出せれば出したいと思いますけれども。今、私が少なくとも自分が委員長として、これまでの皆さんの御意見、そして市民意見交換会の中で出てきた問題、そういったものを議事録なんか見ながら、取りあえず今の現状値としてはこうじゃないのかなということで記載したんですけれども、それは全然違うんじゃないですかとおっしゃっております。では、どうしたらいいんですかと私のほうからお尋ねいたします。

桜井委員。

○桜井　卓委員　全然違うとは言った覚え全くないんですけれども。私が思っているのは、１委員会６人から７人、今６人の委員会と７人の委員会のところがありますよねと、６人のところで支障は出ていないと思うので、６人掛ける３委員会で18人、今、議長がその中に入っているというのがあるので、ここに書いてある採決に加わらない議長１人、これで19人ですよね。19人というのがひとつ基本的な線なんだろうと思っています。この所管事務が多いかどうかというのは、予算額としては多いんですけれども、私は所管事務が多いという言い方は適切かどうか分かりません。特に委員会によって重い、軽いというのはないと感じていますので、18人で議長１人を足すと19人になると。人口等の比較などから見ると、20人というのは若干多いという感じがしておりますので、そう考えると、１人削減、この19人というのが、私は基本線なのかなと考えています。そうすることで、少し議会費の割合というのも予算全体から見たときに、北本市少し多くなっていると思いますので、少しそこが減らすことができるのかなと。ただ、減らさなくても、その分少し事務局の強化に使えればなおいいのかなと考えているところです。それが今のところの私の考え方です。

それから、先ほど永井委員がおっしゃったような、例えば他市との比較とかつけると、すごくボリュームが増えるとおっしゃったんですけれども、先日の資料でも、そこの資料というのはＡ３の紙１枚のもので、それで著しくボリュームが増えるかというと、そんなことはないのかなと考えています。

○工藤日出夫委員長　はい、ほかに。

今、１委員会６人の18人に議長の分で19人ぐらいでという形で委員会としての方向性として

はそういうことでよろしいんじゃないでしょうかという御意見を桜井委員からいただきました。

それについて、何か皆さんから御意見ありますでしょうか。

副委員長、今の意見について。

○中村洋子副委員長　共産党としては今の20人でいいと考えています。それはなぜかというと、やはり市民の皆さんの声を聞くという形の１点と、それから、この委員会の中でやるという状況の中では、今でも健康福祉常任委員会が６人になっていますが、ほか７人ということでやっていて不都合はないという状況になっていますので、20人で妥当という言い方というのは変えたとしても、20人でいいと考えています。

○工藤日出夫委員長　今の意見としては、数を19人、今も桜井委員は19人という、１マイナスの御提言がありました。中村委員からは、現状でいいんではないかという意見がありました。それ以外の皆さんの何か御意見で、最終的にどこらあたりからで集約しなければならないと思いますので、その点についてはいかがでございましょう。

○大嶋達巳委員　桜井委員は６人で３委員会とありましたけれども、その大学教授等の専門知見から１委員会６から７人ということですから、６人がいいか７人がいいか、まずそこの議論をしなくてはいけないのが１つあるのかなと思います。

まず、その１委員会の人数をどうするかということの大前提として、委員会で何をするのかというのも現状必要かと思います。今のままでやるのか、それとも、もっと所管調査とかを充実させるとか、そういったものがあるのであれば、果たして今のままでいいのかという議論もあるかと思います。

また、その一方で、これは実際に起きていることですけれども、総務文教常任委員会はさきの決算のときに、総務文教分科会、ここは委員会から議長が抜けますから、７人のうちから６人になります。そのうち１人の方が欠席されていましたので５人でした。そのうち１人の方が一言も発言していなかったので４人でした。４人で不都合なく回ったんですよ。ということは、４人ということだって考えられるわけです。ですから、４人がいいのか、５人がいいのか、６人がいいのか、７人がいいのか、そこについてもう少し、しっかり議論はなければいけないと思います。

それから、３委員会ということで考えられていますけれども、現状は３委員会ですけれども、本当に３委員会でいいのか。かつて北本市議会は４つの常任委員会がありました。定数を減らしたときに、必然的に多分３つにしたんだと思います。ですから、ここも本当に３委員会でいいのか。例えば志木市であれば２委員会ですよ。７人の２委員会で定数14人でやっていますから、２つの委員会でやるということも可能性としてあるわけですから、委員会を幾つにするのか、そこの議論も十分にする必要があるんだと思います。

○工藤日出夫委員長　ほかに。

永井委員。

○永井　司委員　１点だけですけれども、先ほど大嶋委員おっしゃられたように、人数についてのお話がありましたけれども、実際、私もいろいろ調べていく中で民間の方がおっしゃっているもの、会議の望ましい人数とかであれば、例えば４人とおっしゃる方もいれば、５人とおっしゃる方もいるので、一概に何とも言えないなというのが正直なところでございます。

加えて、委員会で議案を審査しているわけでございますから、会議というよりかは、議案出された議案に対して我々が審査に臨んでいるわけでございまして、一概にその会議運営に望ましい人数というのはイコールではないのかなと思っておるところでございます。人数で何人が望ましいかという話で申し上げますと、人口比例数で見たところで言えば、私の感覚値、数字的なもの、人口比割る議員定数で県内いろいろ比較したら、16人が望ましいと考えておるところでございます。

○工藤日出夫委員長　今、16人が望ましいんではないかというような意見が出てまいりました。

ほかに何か御意見ございますでしょうか。

永井委員。

○永井　司委員　度々申し訳ございません。

以前も議論出ていたと思うんですけれども、一気に人数減らすと、またそれでハレーションがある可能性があるので、18人程度がよいと考えておるところでございます。

○工藤日出夫委員長　今16人が望ましいとは言いながら、議論をしていくという意味で言えば18人ぐらい、18人ぐらいでというようなお話も出てまいりました。

その前に、もっと議会が、そのものについてどうするのかなという議論をするべきではないのか、または１委員会が何人だったら望ましい議論ができるのかというような御意見もありました。全部聞いていると決まりません。でも一定のところに集約させていかなければならないとすると、ここで何かありますか。僕は余り人数何人にしますかという聞き方は余りではないんです、本当言うと。人数が出てきてやっている。

○小久保博雅委員　実際に多くしたときと少ないときでどうなるかというのは経験がないので分からないんですけれども、ただ、少ないよりは多いほうが絶対いいと思います。というのは、今の常任委員会でも委員長報告するときに、その委員会以外の議員の人が、こういう質問はされましたか、ありましたか、どうですか、結構その意見は出ませんでしたというのがあるんですよね。そうすると、今の常任委員会でメンバーの数で十分、もうこれ以上やることないよと、減らしたって大丈夫だよという段階にあるかと思うと、私はそれは違うんじゃないかなと思います。

では何人にすればいいのというは、これははっきり言って分かりませんけれども、最低でも今のメンバーの数は維持していくべきではない

かと思います。

○工藤日出夫委員長　私が最初に、この仮説のところを作ったときには、上の４行だけだったんです。ただ、何か根拠みたいなものを示さないと、アンケートに答える人が何でそうなのかというのが分かりにくいかなと思って、たまたま大学の教授が１委員会６から７人ぐらいでというような御意見が委員会の中に何人かの方から出ていましたので、そこを１つの根拠にした上で、今の我々の現状の中での委員会、３委員会６人の18人の議決に加わらない議長１人に現状維持だとすると、福祉委員会のところに１人増員するという、そういう仮説を基に下の４行を作って、もともとは、最初はだから上の４行だけで聞いたらいいのかなということは思いましたけれども。実際に議員定数を算出する合理的な根拠というのは必ずしも十分あるということではなくて、大学の先生が言っている、１委員会６人から７人ぐらいというのも、１つの研究者の見解なんだろうかなと思うんですね。

ですから、なかなか議員の定数をどこで決めるかというのはなかなか、自分も経験していますけれども、最後はえいやと決めるしかないんです。

ですから、議員定数は減らしたほうがいいと思っている人が何人かいたら、議員定数減らすような条例を動議で出すのが一番なんです。これを皆さんで、全員が合意をするようなところに話をまとめていきましょうと言って、少なくも私がこれまでに何回か経験した中では、１回もまとめまったことはないんです。

島野委員は私よりも、もう４年古いですけれども、どうですか、そんな感じがしませんか。

○島野和夫委員　過去には一気に26人から20人という、そういった議論の中に私もおりまして、そこの中間を取る議員会派も結構いました。そんな中、思い切って20人にしたということで、私はでもこの現行の20人については、最後こうやって現行の20人が妥当な判断というふうに書いてありますけれども、今回市民アンケートを取るという考えであれば、私もよく分かりませんから、ただ、桜井委員が言われた19人となると、奇数だと余りよくないのかなと。議長が１人抜けて本会議で採決を取るときに同数になってしまうということも多くあるのかなという、そういったケースも考えられるのかなという思いです。私はでもこれまで言ってきた定数はそのままでも、やはり議員をやっていく環境を整え、誰でも立候補できる環境を整えるほうが大事だということで一貫して言ってまいりました。ただ、議会費の中の割合ということを考えれば、そういった何人か削減してでも、その分、議員の活動しやすい政務活動費の増加とか、そっちのほうを重視して私は考えていましたので、定数については削減しなくて済めば、そのほうがいいのかなというふうに思います。

○工藤日出夫委員長　ここで暫時休憩します。

休憩　午後　２時１８分

再開　午後　２時４８分

○工藤日出夫委員長　休憩を解いて再開いたしま

す。

アンケートについてでありますけれども、まず、委員会の定数に対する基本的な考え方としては、文書は少し直させていただきますけれども、案を作った４行を中心にして、その中に削減するべきではないかという意見がある中で、定数は現状型等との意見か多く出されましたみたいな形で、その後の４行については記載しないままでアンケートを取るというようなことでいかがでございましょうか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○工藤日出夫委員長　ではそれで仮説の前提条文としては、今の言ったような中身に変えさせていただきます。

設問については、設問の１としては、上記の検討内容を踏まえ、改めて議員定数についてどうお考えですかという、改めてというのは、実は表のほうがあったということで、改めてという言葉使っていますけれども、表のほうをしないということであれば、踏まえ、議員定数についてどうお考えですか、妥当である、減らすべき、増やすべき、分からないという４回答でいかがですか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○工藤日出夫委員長　上記の質問で減らすべきと回答された方だけに伺います。その理由を教えてくださいということで、複数回答かで議員を減らして議会費を削減すべき、だから減らしたほうがいいと。議員一人ひとりの能力が高ければ少数精鋭で十分だと考えるか、または特に理由がないが、印象として議員は少ないほうがいい。４、その他。そのほかに何かありますか。理由を聞くようなこと、我々がこれから定数を最終的に決めるときに、住民の人たちが減らすということに対しての理由をもっと、もう一つこういうのがあったほうがいいんじゃないでしょうかというのがありましたら、また思いつきましたら、後で事務局にお知らせしてください。

大嶋委員。

○大嶋達巳委員　その前に、（２）で減らすべきだけ回答させるというふうにするのは、場合によってはバイアスがかかってしまうような形もあるのかなと、聞くなら全部聞くぐらいなほうが、むしろ減らすべきだけ答えさせる意図が分からないんですけれども、これだけ書かせるのはどうかなというふうに私は思います。

○工藤日出夫委員長　アンケートを取るほうの１つのセオリーとしては、問いの前提で現状が妥当であるということであって、それが妥当であるというふうに答えた人に、何で妥当ですかということを聞くということは、どちらかというとやらない、減らすべきであるという反対の意見を出された人は、その理由を聞くというのが一般的に行われていると思いますので、これ減らすべきというところだけ･･･

〔発言する人あり〕

○工藤日出夫委員長　では、増やすべきについても聞きましょうかね。

〔発言する人あり〕

○工藤日出夫委員長　では減らすべき、分からな

いの３問にいたします。

では、妥当であるということについての理由も聞くということですね。

（１）、（２）のところは問１です。（５）の問５は問２です。問２は聞く必要ありますか。今後の審議会に期待すること。どのような活動に力を入れてほしいですか。これについても、今現在、市の予算や事業が正しくおこなわれているかのチェック、市の課題解決に向けた独自の条例づくりや政策提言、議員同士による時間をかけた深い議論、市民の意見を聞く機会、報告会や意見交換会の充実、議会情報の分かりやすい発信、広報紙、ＳＮＳの充実、地域の身近な困り事や要望への迅速な対応、議員の活動内容の見える化、透明性の確保、議員定数や報酬などの改革に取り組む、その他という項目ですけれども、もう議員定数聞いたから、議員定数や報酬などの改革に取り組むは外しますか。今後も、この問題については取り組んでもらいたいという意味で入れて、ここはこれでよろしいですか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○工藤日出夫委員長　問６を問３にして、議会の改革について何か御意見ございましたらお書きくださいというような形にしますかね。

〔発言する人あり〕

○工藤日出夫委員長　問２は要らない。問２は要らないけれども、問３を問２、中身はこれでいいですか。問４を問３、今のような訂正をするようなところについては事務局のほうで訂正をして、再度皆さんのところにＬｏＧｏチャットで送信しますので、またよく御覧になっていただいて、必要な項目があれば御返事いただきたいと思います。

桜井委員。

○桜井　卓委員　先ほどのその枠の中で、１委員会６人から７人云々というのも削りますよという話で、別にじゃ何か人口に対してとか、議会費がどうかというその資料についても今のところは議論は出てなくて、だから、ほぼ直感的に答えていただくようなアンケートになるという、それには皆さん合意されているんですかね。

○工藤日出夫委員長　後は、ですから表のほうは直感的に回答していただいたとして、次のところについては、議会改革特別委員会では、現行定数の下で行財政執行の監視や住民要望への対応を強化し、委員会討議の充実、住民との対話、政策立案機能の向上、さらに議会情報の発信強化による見える化を進めるべきとの意見が多く、その中で定数について削減すべきという意見もある中で、定数は現状維持が妥当との意見が多く出されましたというところで、取りあえず今回はやって、附則の資料として、何かそういうものの人口比の資料、または定数についての研究者の知見としてはこうこうこうですというのを附属資料として、参考資料として入れるという方法はあるかもしれませんです。この設問の中に入れるんじゃなくて、設問のほかに参考資料として入れるということでどうでしょうかね。

〔「それがいいと思います」と言う人あり〕

○工藤日出夫委員長　そうさせていただきます。

人口比と、後は何かありますか。過去の定数の変化みたいなものは入れておきますか。これ必要ありませんか。

〔発言する人あり〕

○工藤日出夫委員長　そこらあたり調整をして、参考資料として添付するような形で、もう一度アンケートの内容の案を作りまして、ちょうど今定例会中ですので、これから委員会何か始まると事務局の人もせわしないんですけれども、私も少し手伝いながら案を作って、皆さん方に議会中にお諮りさせていただきたいと思います。

それでは、定数のアンケートについては以上のとおりとさせていただきます。

暫時休憩します。

休憩　午後　２時５８分

再開　午後　２時５９分

○工藤日出夫委員長　休憩解いて再開します。

アンケートの取扱いについては、紙媒体ではなくオンラインだけで行きたいと思いますけれども、それでよろしいですか。それとも公民館に紙を置いて、ボックスに入れてもらうようなことにいたしますか。

〔発言する人あり〕

○工藤日出夫委員長　ＱＲコードでなかったらポスターか何かでもいいよね。

永井委員。

○永井　司委員　おっしゃるように、ＱＲコードとかあったほうがいいと思います。告知も必要だと思うので、議長おっしゃられたように、議会だよりのタイミングに合わせて掲載、ＱＲコードだけ掲載、アンケート取っていることだけを掲載するのが望ましいと思います。

○工藤日出夫委員長　締切りについては、広報きたもとにＱＲコードが掲載できるということであれば、４月１日から４月いっぱい、これが無理であって、議会だより、またはその次の広報きたもということであれば、５月１日から５月30日の１か月間ということでよろしいですか。それでよろしいですか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○工藤日出夫委員長　そうさせていただきます。

大嶋委員。

○大嶋達巳委員　先ほど、紙でとか言っていましたけれども、その公民館とか可能な場所全てにポスター掲示、ＱＲコード入れてするべきだと思いますけれども。

○工藤日出夫委員長　ポスターの掲示は、公民館等の施設にポスターで掲示して、ＱＲコードを載せて、そこからでも入れるようにするようにしたいと思いますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

〔「異議なし」と言う人あり〕

○工藤日出夫委員長　はい、そうさせていただきます。

ほかに何かございますか。

〔「なし」と言う人あり〕

○工藤日出夫委員長　ないようです。先ほど皆さんに御承認いただいたような方法で議員定数についてのアンケートを実施いたします。

それでは、日程第２、その他について議題といたします。

その他については、広報広聴委員会からの報告がございますので、よろしくお願いします。

副委員長。

○中村洋子副委員長　２月19日の議会の後、広報広聴委員会を開かせていただきました。その中で、議会報告会についての見直しということでの内容と、あと北本市議会のＸの運用についてという案を皆さんに提示して、この市議会Ｘの運用については、この広報委員会だけではなく、議会全体で議員改革のほうで話をもう少しに詰めたほうがいいということなので、ぜひ時間を、今日ではなくても後で取っていただいてお願いしたいというふうに思っています。

議会報告会についての見直しということでは、年２回、３月議会、予算議会、９月議会ということでの全体の議会報告会というふうな形と、あと今回の提案があるんですけれども、年４回やるということでの現状の状況の中で意見交換会を時間的に多くするというふうなことでの２つの案が出されております。その中で、年２回やるとして、その９月は全体の議会報告会、それで、６月、12月は委員会主催のテーマについての意見交換会、広聴の、市民の皆さんからの意見を聞く、また提案も聞くというふうな時間を設けたほうがいいんじゃないかということもずっと出されていますので、それを３月２日ぐらいまでに集約をして、会派で皆さんもんでいただいて、どちらがいいのかというふうなことで、今までどおりやるか、それとも、その状況を考えてきていただきたいと思っております。

○工藤日出夫委員長　副委員長から広報広聴委員会での報告をいただきまして、１つは、北本市議会ＳＮＳ運用方針の案が示されております。この案については、こちらの委員会でもっていいか悪いかを判断するということでよろしいですか。

〔「特別委員会で」と言う人あり〕

○工藤日出夫委員長　では、今日はこれをそれぞれの会派へ持ち帰っていただいて、中身をよく検討していただいた上で、次回以降の特別委員会の中で議題とさせていただきますので、よろしくお願いいたします。

それでは、引き続きまして、その他の事項の２番目といたしまして、次回は３月２日の月曜日の予算決算の委員会が終了後に開催をするということになっておりますが、今急いで何か議題をする予定がまだついておりませんので、とういたしましょうか。何か皆さんのほうからの御意見で、２日の日やるか、それとも２日の日は中止して、その後、３月12日の一般質問資料後に継続審査の申入れと中間報告の委員会を開く必要がありますので、そのときに何か時間があれば取り上げていくかということで、２日の日は一旦中止するということで、どうでしょうか。

〔発言する人あり〕

○工藤日出夫委員長　３月12日に委員会を継続審査の申入れと中間報告についてを検討する予定

です。その日までに、４月以降の日程を幾つか候補を上げながら調整したいと思いますので、各出先の問題とか、いろいろなことを踏まえながら、何日間か日程調整させていただきますので、御協力のほどよろしくお願いします。

〔発言する人あり〕

○工藤日出夫委員長　それでは、３月２日の日は特別委員会の開催は行わず、次回は３月12日の一般質問終了後とさせていただきます。

ほかに何か皆さんからございますでしょうか。

〔発言する人なし〕

○工藤日出夫委員長　ないようでしたら、副委員長に閉会をお願いいたします。

○中村洋子副委員長　以上で、第15回議会改革特別委員会を閉会いたします。

大変お疲れさまでした。

閉会　午後　３時０９分